

(様式 2)

(技術名) イソフエフキとヒメフエダイ稚魚の重要な育成場							
(要約) 八重山海域で漁獲される水産重要種のうち、海草藻場を育成場として利用する種の分布密度を八重山諸島沿岸部で調査した。その結果、イソフエフキとヒメフエダイの稚魚は、竹富島周辺、小浜島南東部、名蔵湾北部の藻場に特に多く分布することが明らかになり、育成場としてこれらの海域の重要性が高いと考えられた。							
水技センター石垣支所					連絡先	0980-88-2255	
部会名	水産	専門	資源生態	対象	サンゴ礁性魚類	分類	研究
普及対象地域							

[背景・ねらい]

八重山海域で漁獲されるサンゴ礁性魚類には、幼稚魚期を海草藻場で過ごす種が数多く知られている。八重山海域沿岸部には、石垣島を中心に広大な海草藻場が広がっており、これまで名蔵湾の海草藻場を中心に水産重要種の稚魚密度が調査されてきたが、海域全体で同時期に稚魚の分布について調査した事例は見られない。そこで本研究では、八重山海域の広範囲で水産重要種の稚魚密度を調査し、八重山地域の藻場における稚魚の多寡の傾向を明らかにした。

[成果の内容・特徴]

- ・2012年7～9月に石垣島、竹富島、小浜島、黒島、西表島周辺の藻場52地点で稚魚密度を調査し、特に観察数の多かったヒメフエダイとイソフエフキについて分布の傾向を把握した。
- ・2012年の調査で、ヒメフエダイは、小浜島南東部で最も多く出現し、次いで石垣島北部の伊原間、伊野田で多かった(図1)。同様にイソフエフキでは、小浜島南東部に最も多く、竹富島北部および南部、名蔵湾北部、伊野田にも多く出現した(図2)。
- ・2013年は伊原間周辺、小浜島、竹富島周辺の海域および名蔵湾で、2014年は小浜島、竹富島周辺の海域および名蔵湾で調査をしたところ、ヒメフエダイでは2014年にのみ小浜島南東部で密度が高かったが、3年間連続して稚魚密度が特に高い海域は見いだせず、変動が大きかった。
- ・一方、イソフエフキでは、海域による密度の多寡の傾向が3年間連続しており、小浜島南東部、竹富島周辺、名蔵湾北部で高密度であり、イソフエフキ稚魚の育成場としてこれらの藻場が特に重要であることが明らかになった。
- ・名蔵湾では、北側の藻場においてイソフエフキとヒメフエダイの稚魚密度が高い傾向が見られ、名蔵湾保護水面は、これらの種の育成場としても有用であると考えられた。

[成果の活用面・留意点]

- ・本研究によって明らかになった重要海域の稚魚密度をモニタリングすることで、対象種の加入動向把握に活用できると考えられる。
- ・イソフエフキについて、八重山海域広域の藻場における分布の傾向を明らかにしたことで、産卵場からの卵稚仔の分散、加入機構の解明に活用できると考えられる。
- ・魚種によって育成場は異なり、シロクラベラやハマフエフキなど内湾に多く分布する種もあることから、多様な環境がそれぞれ重要であることに注意が必要である。
- ・本成果ではヒメフエダイ、イソフエフキの稚魚密度を判断基準に重要な海域を判断したが、今後は藻場の広さや種組成、立体構造などの物理環境も合わせ、藻場の評価をする必要がある。

(様式 2)

[具体的データ]

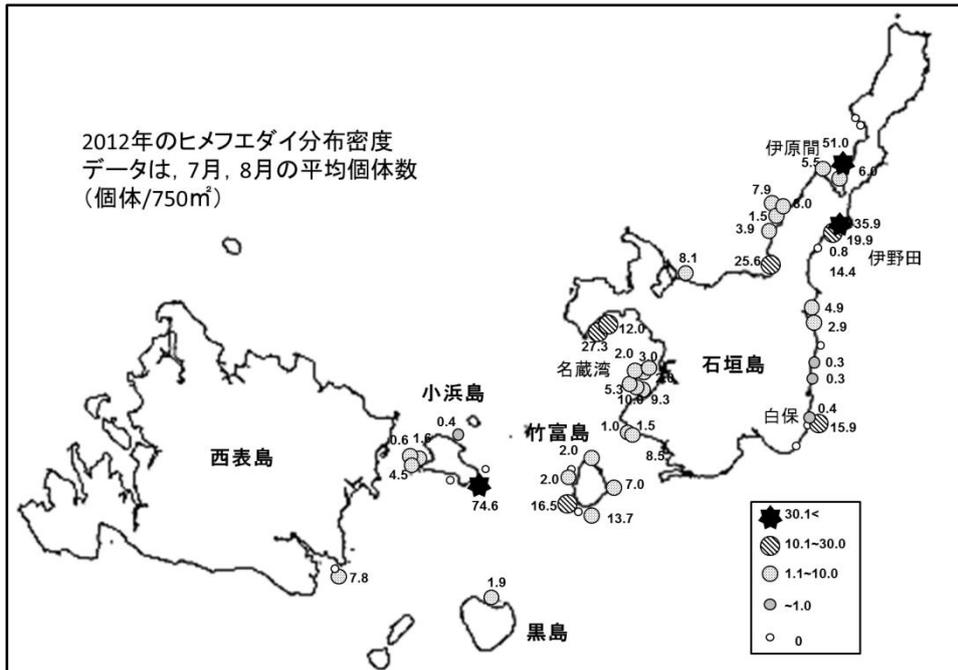


図 1. 八重山海域沿岸の海草藻場におけるヒメフエダイの稚魚密度 (2012 年調査。個体/750 m<sup>2</sup>)。

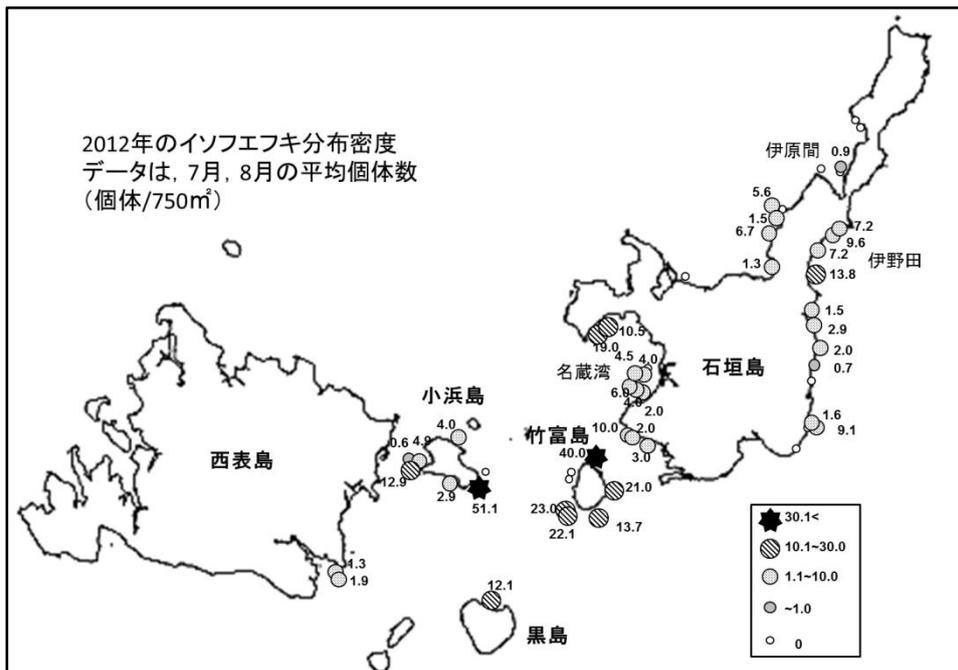


図 2. 八重山海域沿岸の海草藻場におけるイソフエキの稚魚密度 (2012 年調査。個体/750 m<sup>2</sup>)。

[その他]

研究課題名：沖縄沿岸域の総合的な利活用推進事業

予算区分：交付金

研究期間：平成 24～28 年度

研究担当者：秋田雄一

発表論文等：平成 24 年度沖縄県水産海洋技術センター事業報告書